

No.42号

社教連会報

発行 社団法人 全国社会教育委員連合 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-2-3
国立教育会館内 Tel 03-3580-0608

生涯学習と自己実現

(社)全国社会教育委員連合理事
宮崎県社会教育委員連絡協議会会長

上 條 秀 元

世阿弥は「風姿花伝」の「年来稽古條々」の中で、「七歳」(満六歳)から「五十歳以上」までの七つの時期毎に、申樂(今日の能)の稽古の心得をまとめている。

例えば、七歳頃に能の稽古が始まるが「この年ごろの稽古は、子供自身が無意識にやることのうちに、かならずよい面が自然とうち出され、美しい風情を見せるものだ。(中略) いちいち良いとか悪いとか言つて、こまかに教えるべきではない。あまりきびしく注意すれば、子供はやる気を失い、能に嫌気がさしてしまつて、それきり上達が止まる結果となる。」(中央公論社「日本の名著 世阿弥」より)と述べている。

このように、今日の発達課題の視点から見ても、示唆に富んだ指摘をしている。また、能の世界における人間の成長・発達や自己実現の筋道が示されていて興味深い。

私は、これからの生涯学習を国民一

人一人の自己実現のプロセスという観点からとらえてみたいと思つている。

前述の例は、能という職業の世界の話であつたが、趣味として芸能に関わる場合も、その中で学習の発展や個性の伸長が図られることにより、本人の学習意欲が一層高まるという関係が見られる。

他の分野についても同様のことが言えよう。例えば、ボランティア活動は社会奉仕という用語が広く用いられていた頃は、自己犠牲というイメージでとらえられることが多く、自己実現とは正反対の意味合いがあつた。しかし、近年ボランティア活動が自己実現あるいは自己開発に果たす役割が重視されるようになった。このことが、若い世代を含めて、ボランティア活動への参加層の広がりを生み出した重要な要因と思われる。

まちづくりについても、生涯学習の観点からとらえると、人々の自己実現と深く関わつていふと思われる。よく

「まちづくりは人づくりから」と言われる。ここで言う人づくりとは、誰かの手によって人がつくられる「人づくり」でなく、住民の自己形成としてとらえることが求められよう。つまり、住民一人一人がまちの良きを見出し、その継承・普及や発展のために取り組むようになることである。そのためには、住民が能動的に課題に取り組むための方法の開発、例えば問題(課題)解決技法などの学習方法の開発も求められよう。

ところで、宮崎県は、神話のふるさととして知られ、また、古墳群の発掘に示されるように、県内各地に豊かな伝統文化が継承されている。また、それらを大切に守り育てようとする気風にも富んでいる。

このような中で、伝統文化をはじめ、自然、食文化、産業などの様々な側面から、まちの良さを再発見するための活動が広がりがつある。また、まちづくりに関する特定のテーマについて、グループで調査や研究を行う積極的な取り組みも生まれている。

今後は、このような活動の広がりと活動グループ相互のネットワーク形成に期待したい。また、青少年が地域への関心を高め、自発的に学習活動や研究活動に参加することも重要な課題である。そのためには、成人グループ等による青少年への啓発・指導活動や青少年との交流活動が有効な方策の一つと思われる。

第39回全国社会教育研究大会(北海道大会)を終えて

平成九年十月一日、第三十九回全国社会教育研究大会は、「霧とロマンの街」と謳われている道東(北海道の東部)の釧路市に二千百余名の社会教育関係の皆様を全国各地からお迎えしての大会となりました。

北海道としては、平成二年九月旭川市で第三十二回全国大会をお引き受けして以来、七年振りでありました。

開会式当日は、前日まで愚図ついていた天候が一変して、釧路市の上空は抜けるような秋の青空となりました。

まさに天の恵みです。会場に続々とお入りになられる皆さんのお顔が、明るくさわやかに光って見えました。

今大会では、ネームカードの色調を北海道以外の方はブルー、お迎えする私たちはグリーン、特に地元関係者はその下部に赤色を添えて、三色が大会期間を通して親しく溶け合っただけと願い、斯様な色分けをしました。

会場は「釧路市観光国際交流センター」(愛称ラムサル記念館)を主会場とし、開会式は、鈴木勲全国社教連会長の温容にして、謹厳なご挨拶から大会の開幕となりました。

続いて永年の功勞により受賞された六十九名の皆様に、会場から盛大な拍手が寄せられ、まことに同慶の至りで

あります。

開会式の行事後のシンポジウムは、「共に高め合う地域社会の創造をめざす社会教育を考える」という研究主題の下に、心の豊かさを求めてくを副題として設定し、大会初頭から活発な論議が進められました。

夕刻六時からは、雰囲気が一変した約千名の出席者による極めて和やかな交流会となり、笑いが各卓を蔽い楽しい一刻となりました。

大会二日目は北海道からの提案で、特別部会として「生死を考える」部会を設けさせて頂きました。

現今、「学社融合」の論議がしきりになされておりますが、生涯学習の道程と場においても表裏一体の問題を孕んでおり、「融合」の一つの切り口を「生死を語る」面から求めてはどうかという考え方からであります。

人生八十年時代、長寿の時代といわれ、生を語るほどには死を触れるには乏しく、更には余暇時代と称されるほどには人間関係が密になっているとは考えにくい。特に、老若男女の交わりは尚一層乏しいと言わざるを得ません。日常の語り言葉の中に「いのちの限り」について語り合うことが深くなれば、いたわりを知り、優しさを知

り、生への思い、生命の尊厳性に及びより積極的な生き甲斐をつくるための共有・共感・共生の場を見出だす人間運動にならぬものでありましようか。事の是非、当否曲直は今後に委ねるにしましても、ともすれば疎外勝ちな人間関係をつなぐ課題としての論議を欲しいと願うところであります。

その他各部会にわたり、ご熱心なご討議を頂きましたが、後程発行の大会記録を通じてお目通し下さいますようお願い申し上げます。

先刻触れました生死につきましてはご採択下さいました「大会宣言文」の中にも、「生命の尊厳を重視」と言葉を加えさせて頂きました。

大会最終日の十月三日は、薩摩焼宗家第十四代 沈壽官氏のご講演で飾らせて頂きました。

人生の硬軟織り交せて感銘深いお話でありました。幸いに私は氏の書かれた色紙を拝見する機会を得ましたが、「土に祈り、火を畏れつ」と記されてありました。私共社会教育委員も現場に近い人間といえますが、「実学」の凄さを氏から教わりました。

閉会式では、実行委員長の立場でご挨拶の最中、会場に設えた二千余席の椅子を見つめながら、ふとその一脚一

脚を会場に運んでいた裏方さん達の表情を思い出した途端に、長い間ご苦労をおかけした事務局、ご指導を頂いた方々の事が一度に蔽いかぶさり、次の言葉を失い、まことに不様な体たらくで失礼の段お詫び申し上げます。

閉会式の最後は、次期大会の開催地代表として、岐阜県社会教育委員連絡協議会 辻欣一会長 よりご挨拶を頂き閉幕いたしました。明年度のご成功を遥かに祈念いたしております。

願ひて、本大会は太陽に、人に恵まれた大会でありました。

大会スローガンは、「北斗の空。ひびきあう心魂」と定め、暖かくお迎えし、温もりある大会を目指しました。十分に満足の頂ける大会とは考えていませんが、大会ご参加の皆様のご恩情により大過なく終了することができました。まことにありがとうございます。と同時に、ご指導を賜りました関係機関の各位に深甚の謝意を表するばかりでございます。

お陰様で私共北海道での社会教育に関わる仲間が、本大会を通じて友情を再確認する機会ともなり、感謝をいたしております。

内輪ながら大会事務局の皆様ありとう。

北海道社会教育委員連絡協議会会長
第三十九回全国社会教育研究大会

実行委員長 新谷 淳治

東北地区社会教育研究大会を終えて

「あやめ草 足に結ばん 草鞋の緒」、芭蕉の感動が今も伝わる「杜の都」仙台市を会場として「平成九年度東北地区社会教育研究大会」が九月十七日～十八日開催されました。

生憎の小雨模様ではありましたが、東北六県の社会教育委員の方々をはじめ社会教育関係者七五〇余名の参加のもと、「生涯学習社会における社会教育の具体的戦略を探る」を研究主題として盛大に開催されました。

◎九月十七日(水)

会場 仙台国際センター

◎記念講演

「過剰情報化社会と人間の身体」

作家 辺見 庸 氏

(宮城県石巻市出身、みやぎ夢大使)

今の社会、今の若い人たちをどのように考えていくかという事について、多方面から示唆に富むお話をいただきました。

◎アトラクション

「なつかしい童謡コンサート」

仙台童謡愛好会一〇〇余名のみなさんに、思い出の唱歌、童謡お国自慢、楽しい歌、懐かしい童謡の四部に分けて歌っていただきました。とても好評でアンコールもありました。

◎九月十八日(木)

会場 仙台国際センター

◎分科会

大会研究主題のもと、五つの分科会において、事例発表をもとに活発な意見交換がなされ、今後の生涯学習社会の構築に向けての研究協議がなされました。

第一分科会 生涯学習まちづくり

「ジャズによるむらおこし」

第二分科会 社会教育行政「北上市生涯学習推進基本計画の策定について」

第三分科会 家庭・地域社会の教育

力「家庭・学校・地域社会の連携事業の推進」

第四分科会 地域文化活動の振興

「会津染型紙の保存と活用について」

第五分科会 生涯スポーツの振興

◎全体会

各分科会の記録者による分科会報告と大会宣言の採択が行われました。

◎閉会行事

主催者挨拶に続き次年度開催県の山形県への大会旗の引継ぎ及び代表の挨拶がありました。本大会を盛会のうちに終えることができましたのは、参加いただいた各位の御協力によるものと深く感謝申し上げます。

(宮城県社会教育委員連絡協議会 事務局 佐藤 富夫)

関東甲信越静地区社会教育研究大会を終えて

国際観光都市熱海温泉で平成九年度関東甲信越静地区社会教育研究大会を開催。一都十県から社会教育委員並びに社会教育関係者等一五五〇余人が参加。

——研究大会の概要——

研究主題

「豊かな人生を創出する社会教育・社会教育委員の役割」

期日 平成九年九月十七・十八日

会場 熱海市熱海ニューフジヤホテル

参加費 三〇〇〇円

開会行事 会長挨拶・来賓祝辞

基調講演

「少子・高齢社会と社会教育委員の視点」

焼津市教育長 宮澤 宏

各分科会の内容

第一分科会 (社会教育の推進)

テーマ「多様な社会からの要請・指導者の育成」

・時代進展に対応する教育経営

・教育要請に応える指導者育成

第二分科会 (地球理解・国際交流)

テーマ「地球時代の環境問題・異文化との交流・共生」

・地域社会における環境学習

・国際化の推進と異文化交流

第三分科会 (未来を拓く文化の創造)

テーマ「文化発信の社会づくり」

・地域文化の発信

・文化の継承と創造

第四分科会 (家庭教育・青少年教育)

(静岡県社会教育委員連絡協議会 事務局 鈴木 稜)

テーマ「豊かな人生への基礎づくり」

・基礎を育む家庭教育支援

・市民性を育む体験活動の推進

第五分科会 (生涯スポーツ・レクリエーション)

テーマ「健康で明るい社会を支えるスポーツ振興」

・夢と希望のスポーツ振興

・健康・体力・生きがいづくり

第六分科会 (男女参画社会の形成・促進)

テーマ「明るく豊かな共生社会を目指す教育の推進」

・男女平等教育の推進

・性差を巡る意識や制度の改革

情報交換会

記念講演「戦国女房の条件」

作家 杉本 苑子

閉会行事 大会実行委員長よりお礼の挨拶・次いで次期開催埼玉県会長より挨拶で二日間の大会は無事終了。

「豊かな人生を創出する社会の実現」を目的し、各地域における活動状況や研修成果を交流し深めあった。大会は、熱気を帯び真剣な取り組みの内に推移、社会教育の現状は一層明確になったが、この道なお速しの感も残った。

東海北陸地区社会教育研究大会を終えて

近畿地区社会教育研究大会を終えて

第二十八回東海北陸社会教育研究大会は、歴史と伝統に培われた地域を活性化し、豊かな文化を創造していくための拠点施設、三重県総合文化センターを会場に、東海北陸一市六県社会教育関係者が参加し開催されました。
<研究大会の概要>

- ①期日 平成九年十月三十・三十一日
②会場 三重県文化会館、三重県女性センター、三重県生涯学習センター

③参加費 三千元

④参加者数 一千七名

⑤大会主題

「これからの生涯学習社会における社会教育の在り方を考える」

⑥分科会

第一分科会 家庭教育

*社会の変化に対応した家庭教育
第二分科会 高齢者の社会参加
*高齢者の生きがいを高める社会教育

第三分科会 人権教育
*人権を尊重し、差別のない明るい地域づくりをめざす社会教育

第四分科会 青少年教育
*時代の変化に対応した青少年教育

第五分科会 生涯スポーツ
*健康と生きがいづくりのための生涯スポーツ

三重県社会教育委員連絡協議会
事務局 中西儀和

第六分科会 ボランティア活動
*人々の学習活動を支援する人材の育成と活用の在り方
第七分科会 生涯学習まちづくり
*地域の特性を生かした魅力のあるまちづくりの在り方

⑦記念講演
「芭蕉への手紙」

俳人 黛 まどか
⑧大会宣言採択
⑨アトラクション 津音頭保存会

<所感>

七つの分科会では、各県における社会教育活動の実践発表をもとに、年々多様化、高度化するニーズに対応した社会教育の在り方や社会教育委員の役割等について積極的な討議がなされました。
記念講演では、講師のソフトな語り口による俳句との出会い、創作活動、参加者へのアドバイスなどを話され、明日の活動への実践的な示唆と感銘を与えました。

本大会を盛会のうちに終えることができましたのは、参加者の皆様をはじめ、役員の皆様や運営に携わっていたいただきました関係者の皆様のご協力の賜物と深く感謝いたします。

三重県社会教育委員連絡協議会
事務局 中西儀和

近畿地区社会教育研究大会は、奈良県文化会館をメイン会場に、近畿各府県社会教育関係者等約一四〇〇名が参加して開催されました。
<研究大会の概要>

①期日 平成九年八月十九日〜二十日

②会場 奈良県文化会館、奈良県新公会堂、奈良市中央公民館

③開会行事

④コンサート
「まつぼっくりならまち青少年少女合唱団」

⑤分科会
第一分科会 「生涯学習推進体制」
問題提起 兵庫県芦屋市

第二分科会 「青少年・家庭教育」
問題提起 大阪府貝塚市

第三分科会 「高齢者教育」
問題提起 和歌山県海南市

第四分科会 「同和教育」
問題提起 京都府瑞穂町

第五分科会 「ボランティア活動」
問題提起 滋賀県土山町

⑥記念講演
「文化財の形に学ぶ
一人のつながりと現代」

浄瑠璃寺住職 佐伯 快勝
分科会報告

今回の大会では、生涯学習のまちづくり、地域での子育てネットワークづくり、高齢者の学習活動や交流活動の推進、同和教育推進のための効果的な啓発活動、人づくり・まちづくりを支援するボランティア活動等について、各地域における様々な実践に基づき、討議を深めました。
そして、家庭・地域社会・学校の連携を一層深め、真に一人ひとりの人権が尊重される差別のない社会の実現をめざす取組の重要性を認識し、改めて社会教育に携わる者の果たす役割の大きさを確認しました。

記念講演では、佐伯先生から「普段身近にしながら見過ごしがちな仏像や仏様の世界が、どのように生かしているのか、また、どのように生かしているのか」を大変分かりやすく親しみやすくお話いただき参加者一同が深く感銘しました。

「研究大会の成果を各地に持ち帰り、来るべき二十一世紀に向け、豊かで生きがいの持てる生涯学習社会の構築と、地域社会の活性化に尽力することを決意する」の大会宣言を決議し、二日間の大会を終了しました。

奈良県社会教育委員連絡協議会
事務局 東 阪 達 也

中国・四国地区社会教育研究大会を終えて

本大会は、山口市を会場にして中国・四国地区の社会教育委員会をはじめ、社会教育関係者等七百余名が参加して盛大に開催されました。

〈第三分科会〉
社会体育・地域づくり
「豊かなスポーツライフと健康増進のあり方」

〈第四分科会〉
同和教育・人権教育
「差別のない明るい社会の実現をめざす活動のあり方」

- ① 期日 平成九年八月七日～八日
- ② 会場 山口県教育会館 他
- ③ 参加費 二千五百円
- ④ 研究主題

「生涯学習社会の実現をめざした社会教育活動のあり方」

⑤ 記念講演

演題「毛利元就一族の生き方」

講師 作家 浜野 卓也

⑥ アトラクション

みすゞの窓／構成詩の創作から／

(長門市立仙崎中学校みすゞドリムエンジェル)

⑦ 分科会

四つの分科会に分かれて、各地域の活動の状況や研究成果を発表し合い、熱心な研究討議を深めたことは、大変意義深いことでした。

〈第一分科会〉

青少年教育・地域教育

「青少年の自立を促す学校外活動のあり方」

〈第二分科会〉

成人教育・家庭教育

「生涯学習社会における学習活動のあり方」

(山口県社会教育委員連絡協議会 事務局 江原 健二)

九州地区社会教育研究大会を終えて

本大会は、熊本城を間近に仰ぐ熊本市民会館を主会場に開催されました。九州一円から、千五百名を超える社会教育委員会をはじめとした社会教育関係者の参加があり、熱心な討議が繰り広げられました。

〈研究大会の概要〉

○大会テーマ

「一人一人が輝く社会教育」

○期日 平成九年十月三十・三十一日

○会場 熊本市市民会館

熊本市産業文化会館

熊本市国際交流会館

ニユースカイホテル

○参加費 三千円

○分科会

第一分科会(社会教育委員の役割)

事例発表

長崎県小長井町 大分県耶馬溪町

第二分科会(青少年の体験活動の推進)

事例発表

福岡県庄内町 福岡県糸満市

第三分科会(高齢者の社会参加の推進)

事例発表

鹿児島県加世田市 鹿兒島県宜野湾市

第四分科会(環境教育の推進)

事例発表

熊本県甲佐町 鹿兒島県宮之城町

第五分科会(同和教育の推進)

(熊本県社会教育委員連絡協議会 事務局 宮野 眞理子)

事例発表 福岡県豊前市

宮崎県延岡市

第六分科会(社会教育関係団体の育成)

事例発表

佐賀県厳木町 宮崎県田野町

○全体会

アトラクション 牛深ハイヤ節

分科会報告

各分科会記録者による報告

記念講演

「二十一世紀も青い地球で」

熊本県環境センター館長

筑波大学名誉教授

藤木 素士

各分科会では、活発な意見交換がなされ、翌日の全体会でその内容が報告されました。

今回、社会教育の新しい課題であり熊本県全体で力をいれている環境問題をとりあげ、分科会と記念講演を行ったところ、多くの方々から時宜をえたテーマだったという評価をいただきました。

従来からのテーマに加え、環境教育を討議の対象にしたことなどにより、各方面から大きな関心が寄せられ、社会教育の新しい流れを感じさせる大会となりました。

大会宣言

全国各地の社会教育委員をはじめ社会教育関係者が、「霧とロマンのまち」
 釧路市に集い、「共に高め合う地域社会の創造をめざす社会教育を考える」心
 の豊かさを求めて」を研究主題に、第39回全国社会教育研究大会を開催した。
 本年六月、文部大臣が国の第四期生涯学習審議会に対する諮問の一つに、
 「社会の変化に対応した今後の社会教育行政の在り方について」がある。その
 中で、「特に、公民館、図書館等社会教育施設に係る現行制度等に関しては、
 地方分権を推進していく観点からの種々の指摘もなされているところである。
 このような状況を踏まえ、社会教育関係法令の見直しを含め、地方公共団体の
 自主性を生かした今後の社会教育行政の在り方について検討する必要がある。
 また、これに関連し、社会の変化に対応した社会教育の推進のための具体的方
 策について検討する必要がある」と述べており、これはわれわれ社会教育関係
 者に対する新たな問題提起でもある。

こうした状況の中で、私たちは、各地域における社会教育活動の状況や研究
 成果の交流、今日的な課題の解決を目指して研究協議を深めた。そして、共に
 高め合う地域社会を創造するための中心的な役割を担う社会教育の重要性を再
 認識し、より一層の努力を誓い合った。

そこで、本大会の総意をもって、次の緊要な課題の解決に向けて努力するこ
 とを確認するものである。

- 一 生命の尊厳を重視し、差別と偏見のない明るい社会を実現するため、人
 権教育を積極的に推進すること。
- 一 家庭や地域の教育力の向上、男女共同参画社会の形成、環境問題などの
 今日的課題に対応するため、生涯各期における学習の場と機会を拡充する
 こと。
- 一 心豊かでたくましい青少年を育成するため、家庭、学校、地域社会が一
 体となって「学社融合」を推進すること。
- 一 高度化・多様化する学習ニーズに対応するため、関係機関、施設、人材
 等相互の機能の広域的な連携・協力のネットワークを形成すること。
- 一 地方分権を踏まえ、社会教育行政の一層の充実を図るため、社会教育関
 係法令の適正な改正及び財政基盤の整備を図ること。

以上、宣言する。

平成九年十月三日

第39回全国社会教育研究大会（北海道大会）

第24回 ヨーロッパ社会教育視察団参加者募集

本会は昭和50年度より毎年社会教育委員、教育委員、社会教育行政職員、社会教育団体会員のためにヨーロッ
 パ諸国の社会教育事情の視察団を編成し、派遣して参りました。本年は来るべき高齢者社会への対応のために福祉、介護保険、社会参加について重点を置き下記の内容で第24回ヨーロッパ社会教育視察団の団員募集を開始致しますので、またとない機会に是非ご賛同頂きご参加をお勧め致します。

1. 目的 ヨーロッパ各地の社会福祉（特に高齢者向け）施設を見学して、その活動状況を視察する。また来るべき高齢者の社会参加の実態を社会教育施設等の見学にて視察する。さらに各国の博物館・美術館等の社会教育施設を見学する。
2. 期間 平成10年11月1日(日)～11月10日(火) 10日間
3. 旅程 東京→コペンハーゲン(3泊)→ウィーン(2泊)→フランクフルト(1泊)
 パリ(2泊)→東京
4. 主要視察先
 コペンハーゲン…ナーシングホーム、国民高等学校、社会教育セミナー、アマリエンボルク城、
 人魚の像、クリスチャンボー城、チボリ公園、市庁舎広場、国立博物館
 ウィーン…国民高等学校、高齢者集合住宅、シェーンブルン城、ベルベデーレ宮殿、
 ウィーン大学、プラター、中央墓地、聖シュテファン寺院
 フランクフルト…近郊自治体福祉部(介護保険)、在宅ケアサービス、ゲーテの家、
 聖パウロ協会、旧市庁舎、ハイデルベルク城、大学広場、学生牢
 パリ…近郊自治体(ホームヘルプサービス)、ルーブル博物館、ノートルダム寺院、
 凱旋門、コンコルド広場
5. 参加経費 460,000円(全朝食付、ベテラン添乗員が全行程ご案内します。)
 ※社会教育委員の方には本会から20,000円の助成金があります。
 ※全食事を加えた場合は約56,000円の追加経費がかかります。
6. 募集人員 25名(先着順、定員になり次第締め切り)
7. 募集締切 10月13日(火)〈10月15日(休)午後都内にて事前説明会を予定しております。〉
8. 応募方法 はがきで全国社会教育委員連合へお申し込み下さい。
 なおご請求下されば詳細資料等お送り致します。
9. 旅行業務 旅行に関する一切の業務は、近畿日本ツーリスト(株)虎の門海外旅行事業部が担当します。
10. 連絡申込先 〒100-0013 東京都千代田区霞ヶ関3-2-3 国立教育会館内
 社全国社会教育委員連合 TEL. 03-3580-0608

第40回全国社会教育研究大会開催地の紹介

第四十回(平成十年度)全国社会教育研究大会(岐阜大会)を
大会スローガン

『日本真ん中夢づくり』

・出会い・発見・そして前進
研究主題

『日本のよさを生かした個性ある
人づくり・まちづくり』

期 日

十月二十一日(水)～二十三日(金)

長良川国際会議場で開催させていただくこととなりました。

全国から多数の社会教育関係者を温かくお迎えするために、関係者一丸となって準備を進めているところで、そこで、今回の開催地であります岐阜の紹介をさせていただきます。

(1)「日本のまん真ん中」岐阜
岐阜県は、本州の中央、北緯三十六度東経一三七度に位置し、乗鞍・白山・養老等の三〇〇メートル級の山地に囲まれた自然の豊かな山の国です。

また、木曾川・長良川・揖斐川の三大河川に恵まれた水郷地帯です。
このように北は山地に囲まれた「飛騨国」、南は水郷地帯のある「美濃国」に分れています。

人口は二一〇万人、面積は一〇五九五平方キロメートル、九十九市町村から成立っています。

(2)「温泉天国」岐阜

岐阜県には、数多くの温泉があります。江戸時代の儒学者・林羅山によつて日本三名泉「有馬」「草津」とともに挙げられた「下呂温泉」は、湯治場として一〇〇〇年以上の歴史を誇る名湯です。

三〇〇メートル級の北アルプスを眺めながら、露天風呂を楽しめる奥飛騨温泉郷には、平湯・福地・新平湯・栃尾・新穂高の五つの個性豊かな温泉天国があります。

上宝村には、「奥飛騨温泉郷オートキャンプ場」があります。

御嶽山の麓には、日本一高所の温泉「濁河温泉」があり、近くの市町村にも数多くのひなびた温泉が湯煙をたてています。

(3)「日本を動かした歴史のまち」岐阜
六七二年岐阜県不破郡垂井町野上において、「壬申の乱」が起きました。大海人皇子と大友皇子の間に起きた皇位継承争いです。

勝利した大海人皇子は、翌年「天武天皇」として即位し、この地に日本三関の一つ「不破の関」をおき、天下の変乱に備えました。

一六〇〇年には、不破郡関ヶ原町で徳川家康率いる東軍と石田三成率いる西軍が激突し、「天下分け目の関ヶ原

決戦」となりました。

関ヶ原「陣場野」には、合戦の様子を中心にした「歴史民族資料館」があります。古戦場には、数多くの史蹟が残っています。

岐阜市の中心部に海拔三二九メートルの金華山があり、頂上に天下平定の偉業を成し遂げた「織田信長の岐阜城」が聳えています。

この城は、もともと斎藤道三が建てたものであり、道三の娘婿の織田信長がその願いを叶え天下を統一しました。

山頂までロープウェイがあり、天守閣からは眺めもよく、眼下に岐阜市をはじめ濃尾平野が一望できます。

(4)「伝統的文化的行事を守る」岐阜
「長良川の鵜飼」は、一二〇〇年余の歴史を持ち、古風な装束に身を包み十二羽の鵜を操る鵜匠を乗せた六隻の鵜船が川面にかがり火を映しながら、一斉に下ってくるさまは壮観で、感動の一瞬です。

五月十一日から十月十五日まで繰広げられています。
江戸中期から続いている「高山祭」の屋台は、飛騨の富と技を集めた豪華絢爛さで「動く陽明門」といわれます。

からくり人形の妙技も観衆をうならせませす。春は、四月十四日と十五日、秋は、十月九日と十日に開催されます

が、屋台は常時展示して観覧できるようになっています。

庶民の素朴で多様な感情を歌い上げる「踊り歌」を中心に、幾重もの輪になって人々が踊る「郡上踊り」は四〇〇年以上も続いています。

八月十三日から十六日までの徹夜踊りを含め、毎年七月から九月上旬にかけ一カ月半続けられます。

(5)「文化遺産の宝庫」岐阜

平成七年十二月「世界文化遺産」に登録された「白川郷合掌造り」は、ブルーノ・タウトも激賞した伝統建築であります。

金具を一切使わない合掌造りの集落は、豪雪地帯の白川村にあります。

「名刀関の孫六」で名高い「孫六兼元」を初め数多くの名刀師を輩出した関市は、現在でも刀匠の多いことでは日本有数の地として有名です。

現在では、その伝統が生かされ「包丁・はさみ・ナイフ」などあらゆる刃物製品をはじめ洋食器類も製造しています。

その他「日本ライン下り」「養老の滝」「円空仏」「薩摩義士の千本松原」「乗鞍スカイライン」「奥の細道結びの地」「岐阜の富有柿」「豊臣秀吉の一夜城」など皆様を歓迎しています。

会場の長良川国際会議場は、JR岐阜駅・名鉄新岐阜駅からバスで二十分です。

第四十回全国社会教育研究大会

事務局長 加藤 茂

事務局だより

◆平成9年度第2回総会終る

平成9年度第2回の総会が第39回全国社会教育研究大会（北海道大会）の第1日目に次の通り開催されました。

日時 平成9年10月1日（水）

16時30分～17時30分

会場 釧路市釧路キャッスルホテル

総会は定刻に司会者より開会を宣し本総会は定款第26条により定足数（正会員数60名中出席者60名）を満たし成立する旨を告げ、まず鈴木勲会長の挨拶があり、次に新谷淳治第39回全国社会教育研究大会実行委員長より全国大会開催について、各県の協力に対してお礼の挨拶がありました。

ひきつづき議長の選任を行い、秋山一夫栃木県会長を選出し、議事録署名人として近藤恭弘愛知県会長と久昭三和歌山県会長を指名し、議事に入りま

した。

第1号議案 第40回（平成10年度）全国社会教育研究大会の開催について

加藤茂岐阜県事務局長より開催要項案について詳細な説明があり、期

日は平成10年10月21日（水）、22日

（木）、23日（金）の3日間、岐阜市の

長良川国際会議場において開催の旨

発表があり、満場一致で承認、可決

されました。

第2号議案 第41回（平成11年度）全

国社会教育研究大会の開催地区（ブ

ロック）について

事務局より第41回全国大会の開催

地区は中国四国地区になる旨発表。

河村太市山口県会長より中国四国地

区で検討の結果、鳥取県に決定した

旨説明。永田卓夫鳥取県副会長より

平成11年10月中旬になる旨発表があ

り、全員異議なく承認、総会は閉会

しました。

◆平成10年度 地区別社会教育研究大

会開催概要について

北海道地区 千歳市 10月8日～9日

主題「生涯学習社会の実現をめざし

た社会教育のあり方」

東北地区 山形県 9月24日～25日

主題「生涯学習社会における社会教

育の役割を考える」

関東甲信越静地区 埼玉県

9月21日～22日

主題「充実した人生を築く生涯学習

社会づくりに果たす社会教育の

在り方と社会教育委員の役割」

近畿地区 京都府 8月5日～6日

主題「生涯学習社会に向けた社会教

育の今日的な役割を探る」

中国四国地区 香川県

9月17日～18日

主題「二十一世紀をめざした新たな

社会教育活動のあり方」

九州地区 宮崎県 10月8日～9日

主題「地域社会を担う社会教育を考

える」

指定都市 川崎市 5月14日

社教情報

38号 [A 5判64頁] 定価300円 (税込) 190円 平成10年2月下旬発行予定

全国でご活躍の社会教育委員を結ぶ唯一の機関誌であります「社教情報」第38号を下記により発行いたします。全国各地の社会教育委員の交流と研修の糧として、ご購入下さいますようお願いいたします。

特集「生涯学習援助システムとしての学習相談」

- ◆論文 生涯学習援助システムとしての学習相談 広島大学助教授 小池 源吾
 - ◆論文 学習相談実施機関の動向と課題 文教大学教授 平沢 茂
 - ◆解説 学習相談の組織と相談員の活動 栃木県総合教育センター
 - ◆事例 青森県総合社会教育センター、埼玉県春日部市視聴覚センター、神奈川県横浜市港南区、福岡県立社会教育総合センター
 - ◆論文 社会教育行政の今日的動向 文部省社会教育課地域学習活動推進室長 占部浩一郎
 - ◆視察記 ◆随筆 ◆レポート ◆思考と提言 ◆コラム ◆短歌 ◆俳句 等
- 編集/社団法人 全国社会教育委員連合 発行/財団法人 全日本社会教育連合会

好評発売中!

社会教育委員等の研修会テキストにお薦めします

改訂・社会教育委員必携

—生涯学習の推進と社会教育委員の活動—

編集 福留 強

ISBN4-7937-0104-3 定価1260円 (税込) 7310

- 生涯学習と社会教育
- 生涯学習と社会教育行政
- 社会教育計画の立案の方法
- 社会人を対象とした高等教育機関の学習機会提供
- 現代的課題と学習プログラム
- 学習成果を生かしたボランティア活動の支援・推進
- 学社融合と青少年の健全育成
- 生涯学習のまちづくりの意義と方法

◎ご注文は最寄りの書店、又は連合会迄（書店様にはこちらをご提示下さい*取次取引コード3943）

◎20冊以上直接連合会にお申し込みの場合は送料無料（平成10年4月末日迄）

発行/（財）全日本社会教育連合会

TEL 03-3580-0608

FAX 03-3580-2869